

授業科目の区分	専門分野《基礎看護学》	
授業科目	看護の概念	
開講年次・学期	1年次・前期	
単位（時間）	1（30）	
担当講師	《副校長》看護師としての実務経験あり	
科目のねらい	看護学の中で最初に学ぶ科目です。看護の歴史の変遷を踏まえ、看護の主要概念である人間・健康・環境・看護について、広い視点で学びます。また、人々の健康に寄与する看護職について理解し、医療中の看護の役割と機能、看護活動の場についての概略を学ぶ科目です。さらに看護を追究する姿勢や学ぶ方法を知り、これからの学修に活かすことをねらいとします。	
到達目標	看護全般の概念をとらえ、看護の位置づけと役割を理解し、看護の本質を追究する姿勢を養う。	
授業計画	回	内容と方法
	1（2h）	1. 授業ガイダンス・看護への導入（講義） 基礎看護学の位置づけ 2. 看護とは何かを考える(演習)
	2（2h）	1. 看護の定義（講義） 2. 看護の歴史的な変遷
	3（2h）	1. 看護の対象の理解（講義・演習） - 人間の「こころ」と「からだ」を知ることの意味 -
	4（2h）	1. 看護の対象理解(講義・演習) - 生涯発達し続ける存在としての人間の理解 - - 人間の「暮らし」の理解 -
	5（2h）	1. 国民の健康状態と生活（講義・演習） - 健康の捉え方 -
	6（2h）	1. 看護の概念（講義・演習） ナイチンゲールの看護論
	7（2h）	1. 看護の日校外学習
	8（2h）	1. 看護の概念（講義・演習） ナイチンゲールの看護論
	9（2h）	1. 看護理論家にみる看護の定義（講義）
	10（2h）	1. 看護の役割と機能（講義） - 看護ケアについて - - 看護実践とその質保証 - - 保健・医療・福祉システムと看護 -
	11（2h）	1. 看護における倫理（講義・演習）
	12（2h）	1. 国民の健康状態と生活（講義） - 国民の健康状態 - - 国民のライフサイクル -
	13（2h）	1. 看護提供のしくみ（講義） - サービスとしての看護 - - 看護サービス提供の場 - 2. 看護の提供者 - 職業としての看護 - - 看護職の資格・養成制度・就業状況 - - 看護職者の継続教育とキャリア開発 -
	14（2h）	1. 保健医療福祉チームにおける保健師の役割
	15（2h）	1. 終了試験 2. 「身近な人の健康を守る」提案書の共有(演習)
必携文献	1) 茂野香おる他：系統看護学講座 専門分野 I 基礎看護学〔1〕看護学概論，医学書院，2026. 2) 社団法人日本看護協会監修：2026年版 看護職の基本的責務—定義・概念／基本法／倫理，日本看護協会出版会，	

	3) F. ナイチンゲール著 湯楨 ます他訳：看護覚え書，現代社，2023.														
参考文献	1) 厚生統計協会編：厚生指標 国民衛生の動向														
成績評価方法	事前学習、出席状況、参加姿勢、レポート提出、客観テストで評価し、6割以上を合格とする。														
備考	人々の健康や豊かな生活を支えていく看護を学ぶ第一歩です。自己の問いを育みつつ考えを深めていきましょう。														
出席自己 チェック欄 30h	2	4	6	8	10	12	14	16	18	20	22	24	26	28	30 試験 (1)

授業科目の区分	専門分野《基礎看護学》															
授業科目	フィジカルアセスメント															
開講年次・学期	1年次・前期															
単位（時間）	1（30）															
担当講師	《専任教員》看護師としての実務経験あり															
科目のねらい	看護行為に共通する援助技術の一つとして本科目を設定する。看護職は、対象となる人のいのちと暮らしを護るため、対象の状態をアセスメントし、適切な看護を提供するという役割を担っている。本科目では主に、身体的な情報を意図的に収集し、判断、共有するための思考を学ぶ。五感を駆使したフィジカルイグザミネーションの技術、私たちが把握することのできる身体の反応と身体内部で起こるそのメカニズムを統合し、対象の身体をアセスメントする基礎的能力を身につけることをねらいとしている。															
到達目標	①フィジカルアセスメントの意義が理解できる ②フィジカルアセスメントに必要なフィジカルイグザミネーションの技術を身につける ③フィジカルアセスメントの思考過程から身体状態の正常、異常が判断できる															
授業計画	回	内容と方法									事前学習			事後学習		
	1 (2h)	講義：本授業で学ぶこと フィジカルアセスメントの意義とバイタルサイン									体温、呼吸、循環のしくみ			学習整理シート 夏期休暇課題		
	2 (2h)	講義：バイタルサインの観察とアセスメント 「体温」「呼吸」									体温と呼吸に関する基礎知識			学習整理シート		
	3 (2h)	講義：バイタルサインの観察とアセスメント 「脈拍」「血圧」（触診法/聴診法）									循環に関する基礎知識			学習整理シート		
	4 (2h)	講義：バイタルサインの観察とアセスメント 「意識レベル」									意識に関する基礎知識			学習整理シート		
	5・6 (4h)	演習：バイタルサインの測定（実習室） 身体計測（身長、体重、腹囲）									測定方法の確認			バイタルサイン測定方法の振り返り		
	7 (2h)	技術確認：血圧測定									技術練習			確認テスト自己学習		
	8 (2h)	講義：フィジカルアセスメントのすすめ方 フィジカルアセスメントに必要な技術												学習整理シート		
	9 (2h)	講義：呼吸器系のフィジカルアセスメント 呼吸器系のフィジカルイグザミネーションの種類と方法 異常・正常呼吸音のリスニング									呼吸器の解剖生理 自分の呼吸音の聴診をする			学習整理シート		
	10 (2h)	講義：呼吸器系のフィジカルアセスメント パルスオキシメーターの仕組みと測定方法												学習整理シート		
	11 (2h)	講義：循環器系のフィジカルアセスメント 循環器系のフィジカルイグザミネーションの種類と方法									循環器の解剖生理			学習整理シート		
	12 (2h)	講義：循環器系のフィジカルアセスメント 心音、浮腫のしくみと観察方法									自分の心音を聴診する			学習整理シート		
	13 (2h)	講義・演習：実習で役立つフィジカルイグザミネーション 腹部所見、MMT、関節可動域、瞳孔所見 深部静脈血栓と肺塞栓									腸蠕動音、MMT、 瞳孔所見、深部静脈 血栓症のしくみ			学習整理シート		
	14 (3h)	講義・演習：「みんなで考えよう！フィジカルアセスメント」 事例患者の身体所見から状態を判断する									演習に関連する事前課題			学習整理シート		
	15 (1h)	終了試験														
必携文献	1) 茂野香おる他：系統看護学講座 専門分野 基礎看護学② 基礎看護技術I，医学書院，2023. 2) 医療情報科学研究所編：看護が見える3フィジカルアセスメント，メディックメディア，2019. ＊ 看護技術経験の綴り															
参考文献	1) 坂井健雄著：系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能 [1] 解剖生理学，医学書院，2026. 2) 任和子・秋山智弥編：根拠と事故防止からみた 基礎・臨床看護技術 医学書院 2025.															
成績評価方法	客観テスト（リスニングテスト含む）、課題提出状況で評価し、6割以上を合格とする。															
出席自己 チェック欄 30h	2	4	6	8	10	12	14	16	18	20	22	24	26	28	29	30 試験 (1)

授業科目の区分	専門分野《基礎看護学》	
授業科目	日常生活援助技術の統合	
開講年次・学期	1年次・前期	
単位（時間）	1（30）	
担当講師	《専任教員》看護師としての実務経験あり	
科目のねらい	ナイチンゲールは看護を「art and science」であるとも述べています。看護師には患者の事実に即して最善の方法を工夫することが求められています。本授業では、事例に基づいて、日常生活援助の必要性や目的、方法を考え、演習を行います。また、患者役、観察者となり他者の立場から見る体験と看護者として身体を動かす体験を繰り返しながら、グループで気づき・学びを共有しながら わざの訓練をします。	
到達目標	事例に基づいた日常生活援助を具体的に体験することを通して、看護技術を修得する。	
授業計画	「日常生活援助技術」と合わせて進める。	
	回	内容と方法
	1 (2h)	<u>演習</u> 活動・休息援助技術 ① 1) 体位変換
	2 (2h)	<u>演習</u> 活動・休息援助技術 ② 1) 車椅子への移乗・移送 2) ストレッチャーへの移乗・移送
	3 (2h)	
	4 (2h)	<u>演習</u> 苦痛の緩和・安楽確保の技術 1) 体位保持（ポジショニング） 2) 温罨法・冷罨法
	5 (2h)	<u>演習</u> 清潔・衣生活援助技術 ① 1) 全身清拭 2) 寝衣交換
	6 (2h)	<u>演習</u> 清潔・衣生活援助技術 ② 1) 陰部洗浄 2) おむつ交換
	7 (2h)	<u>演習</u> 清潔・衣生活援助技術 ③ 1) 手浴・足浴 2) 洗髪 3) 整容
	8 (2h)	
	9 (2h)	<u>演習</u> 食事援助技術 ① 1) 食事介助（嚥下障害のある患者を除く）
10 (1h)	<u>演習</u> 食事援助技術 ② 1) 摂食・嚥下訓練 2) 経管栄養法	

	11 (2h)	<u>演習</u> 排泄援助技術 ① 1) 自然排尿および自然排便の援助 (床上排泄・ポータブルトイレ等)														
	12 (2h)	<u>演習</u> 排泄援助技術 ② 1) 導尿														
	13 (2h)	<u>演習</u> 排泄援助技術 ③ 1) 浣腸														
	14 (2h)	<u>演習</u> 看護技術テスト 演習 ① ②														
	15 (2h)	事例をもとに、複数の援助技術項目を組み合わせ、援助計画を立案する。 事例に基づいた患者を想定し、繰り返し練習を行い、技術を修得する。														
	16 (1h)	看護技術テスト														
必携文献	1) 任和子他：系統看護学講座 専門分野 基礎看護学〔2〕基礎看護技術Ⅰ，医学書院，2023. 2) 任和子他：系統看護学講座 専門分野 基礎看護学〔3〕基礎看護技術Ⅱ，医学書院，2025. 3) 任和子・秋山智弥編：根拠と事故防止からみた 基礎・臨床看護技術，医学書院，2025. ＊ 看護技術経験の綴り															
参考文献	1) 坂井建雄著：系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能〔1〕解剖生理学，医学書院，2026. 2) 西沢いづみ他：これから看護を学ぶ学生のための理科・計算・国語・社会の復習ワーク&ドリル，医学書院，2022.															
成績評価方法	課題内容・提出状況、参加姿勢、終了試験で評価し、6割以上を合格とする。															
備考	単元毎にグループを組み、演習を行います。体調を整えて全日程の出席を望みます。 看護技術テストの詳細はオリエンテーションで説明します。 ※日常生活援助技術・日常生活援助技術の統合の単位を修得した者でなければ、基礎看護学実習Ⅰ(日常生活援助)を履修することはできない。															
出席自己 チェック欄 30h	2	4	6	8	10	12	14	16	18	19	21	23	25	27	29	30

授業科目の区分	専門分野《基礎看護学》														
授業科目	看護を展開する技術														
開講年次・学期	2年次・前期														
単位（時間）	1単位（30）														
担当講師	《専任教員》看護師としての実務経験あり														
科目のねらい	看護は人間が本来持つ自然治癒力を発揮しやすい環境を整え、健康の保持増進、疾病の予防、健康の回復、苦痛の緩和を行い、生涯を通してその人らしく生を全うすることができるよう支援することを目的としている。対象となる人はあらゆる発達段階・健康レベルにあり、多様な価値観をもつ生活者である。対象と丁寧にかかわりあい、対象の健康上の問題を見極め、その時最適かつ個別的な看護を提供するために、その基本となる思考過程を「看護を展開する技術」として習得する。時代が変わろうとも色あせない看護の本質・専門性についてともに考えられる授業としたい。														
到達目標	看護の過程的構造とその展開方法が理解できる														
授業計画	1回目	講義・GW	授業ガイダンス 観察による情報収集												
	2回目	講義・GW	対象の全体像を捉える 看護の視点と事実の情報化（情報の整理）												
	3回目	GW	生活過程全体を捉える 情報の分析、看護の方向性を探る①												
	4回目	GW	生活過程全体を捉える 情報の分析、看護の方向性を探る②												
	5回目	GW	生活過程全体を捉える 情報の分析、看護の方向性を探る③												
	6回目	講義・GW	対象の全体像を描く（関連図）												
	7回目	講義・GW	看護上の問題を明らかにする思考①												
	8回目	個人	看護上の問題を明らかにする思考②												
	9回目	GW	看護上の問題を明確し、援助の方向性を共有する												
	10回目	講義	看護計画とは（看護計画立案）												
	11回目	演習	看護実践 心をこめて対象とかわる												
	12回目	講義	看護記録とは												
	13回目	GW	看護実践を振り返り、評価する												
	14回目	講義	評価とは												
	15回目	講義	看護過程とは												
必携文献	1) 任和子他：系統看護学講座 専門分野 基礎看護学〔2〕基礎看護技術Ⅰ，医学書院，2023.														
参考文献	授業の中で紹介します。														
成績評価方法	課題の取り組み状況・出席状況・学習への取り組みを総合的に判断し6割以上を合格とする。 詳細は授業の中で説明する。														
備考	<ul style="list-style-type: none"> 理解を深めるためには、講義を聴くだけでなく、主体的に事前・事後学習に取り組むことが必須。 看護実践のための学習スキルを磨くには、「わからない」感覚を大切に、丁寧に訓練する姿勢が重要となる。 ※倉敷中央看護専門学校 学則細則 第5章 第11条（履修方法）3）より 基礎看護学実習Ⅰ（看護との出会い・日常生活援助）・看護を展開する技術の単位を修得した者でなければ、基礎看護学実習Ⅱ（看護過程の展開）を履修することはできない。														
出席自己 チェック欄 30h	2	4	6	8	10	12	14	16	18	20	22	24	26	28	30